



Gemeente Amsterdam

Dienstverlening en Facilitair Management

N.A.P.

アムステルダム標準水位

N.A.P.プロジェクトはルイ・ファン・ハステルン (Louis van Gasteren) とケース・ファン・デル・フェール (Kees van der Veer) によって考案され、市役所のオープニングを記念してN.A.P.財団主催のもとに実施されました。長さ25mのレリーフは、アムステルダムとオランダのその他都市との水位の差を表しています。

アムステルダム標準水位は、オランダや多くのヨーロッパ諸国における標高基準であります。つまり、その国の全ての標高はこの基準に基づいています。前述の標高とは、風や潮流のない状態で、オランダが水に覆われている水位を指します。1683年9月1日から1684年9月1日の一年間、アムステルダムにあるアイ港 (het IJ) のハーレム水門の干潮と満潮を計って標高0mが定められました。

同じく17世紀には、石に水平の溝を彫ってアムステルダムの水位を表していました。当時、アムステルダムの堤防や水門にはこういった石が8つあったそうです。

仮にアイ入江が直接海に接しているとしても、平均海面が変わったため、水位はアイ港の満潮時の平均潮位と同じではなくなりました。1995年には、Vlissingen (南西オランダ) の標準水位はN.A.P.-1 cmであり、Delfzijl (オランダ北部) の標準水位は N.A.P.+7 cmでした。



N.A.P. 柱

下を見ると、第二砂層まで打ち込んだN.A.P.柱が上に向かって建物の中に出てきているところが見えます。ポールの先端にはブロンズ製のN.A.P.の較正点があります。その部分はちょうどアムステルダム標準水位 (N.A.P.) の高さ、0メートルと同じです。1988年5月18日、運輸・水利省によって正式な較正点が定められました。



水柱

2つの水柱は、運輸水利局・感潮水域センターの中央計測所との電話回線を通じて、現時点におけるIJmuidenとVlissingenの干満潮を再現しています。第3の水柱は1953年にゼーランド地方で起きた大洪水時の水位(N.A.P.+4.5メートル)を再現しています。

オランダの断面図

東から西へ：フェルウェ国立公園、アイセルメール干拓地、アイセル湖、アムステルダム：ウォーターフラーフスメール区、市役所/ミュージックシアター、アムステルダム中央(ダム広場)、アムステルダム西地区、ハーレマーメール干拓地(スキポール)、砂丘そして北海の順番になってます。レリーフは、砂岩(砂と先カンブリア時代の砂)、暗灰色の切石(泥炭と粘土)、ガラス(運河の水、湖、海)とアルミニウム(人間が造った全てのもの：堤防と建物)からできています。ここに見える海は満潮時の海です。アムステルダムの運河の水位は通常、N.A.P.-40 cmです。

アムステルダムの土壌は泥炭からできており、その上に街が造られました。地盤が軟弱な為、街を支えるのに杭が必要です。アムステルダム中央の下にある丸い木製の杭は、不安定な第一砂層の上に立っています。アムステルダム東地区とアムステルダム西地区にある四角いコンクリート製の杭は、近代的な工法によって第二砂層まで打ち込まれています。